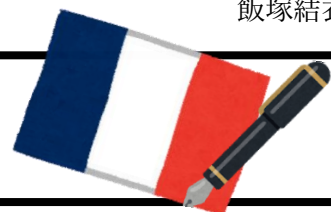


フランス便り

～2019年7月～



【はじめに】

Bonjour! ストラスブールに留学中の飯塚です。フランスは7月に入るとバカンスに入るので、ストラスブールでもいつもよりもたくさんの観光客を目にするようになりました。また、夏のイベントもたくさん開かれています。例えば、広場ではコンサートが開かれたり、ストラスブール大聖堂では22時半から毎日プロジェクションマッピングが行われたりしています。また、ストラスブールの近くには海がないので川の近くに砂を敷き詰めてパラソルをたて、人口の海岸も作られました。川が汚いので泳ぐことはできま

せんが、ボートで遊んだり日光浴をしたりしている人をよく見ます。1月号で冬の SOLDES(ソルド)について書きましたが、6月下旬から夏の SOLDES も始まりたくさんの人がセール商品を探り買い物をしています。(SOLDES は年に2回、5週間にわたって行われるバーゲンのことです。)日本と違うと思うところは、みんながバカンスを楽しんでいるところです。レストランや雑貨屋さん、ケーキ屋さんなどもバカンスでよく閉まっています。(やっているお店もたくさんあります。)観光客が来る夏は稼ぎ時だと思うのですが、みんなそれよりもバカンスが大事なようです!

【La Fête Nationale】

7月14日はフランスにとって重要な“La Fête Nationale”(建国記念日)です。フランス革命でルイ16世とマリーアントワネットが処刑され、それまでの絶対君主制が終わりを迎えました。この革命の始まりとなった市民蜂起(バスティーユ牢獄襲撃)が行われたのが1789年7月14日です。毎年この日はフランス各地でお祭りが行われます。ストラスブールでも13日に式典、14日に音楽のコンサートと花火大会がおこなわれました。

私は7月13日の式典、14日の花火大会を友達と一緒に見に行きました。

13日の式典はライン宮殿の前にある公園のレピュブリック広場で行われました。式が始まる1時間前に広場に到着しましたが、まだ人もあまりおらず最前列で見ることが出来ました。普段街を守っている軍や警察、消防などがブラスバンドの行進と共に登場し、式が始まりました。そのあと、ブラスバンドの演奏や、軍や警察、消防の人の表彰が行われました。今回の式典では初めて軍用機が披露され、広場の上を2回軍用機が飛んでいきました。



14日はエトワール公園で22時30分から花火が上がりました。私は友達と見に行きましたが、たくさんの人が見に来ていました。日本で花火大会があると早くから来て場所取りをしている人がたくさんいますが、フランスではそんな人はおらず、みんな時間になると来てその場で立って鑑賞していました。近くに川があるのでそこから上がると思っていたのですが、公園から上がっていたので落ちてくる火花が公園の木々に引火しないか心配しながら見ていました(笑)花火は約20分間上がっており、本当にとても綺麗でした。建国記念日の花火せいか、青、白、赤のトリコロールカラーの花火も何回か上がっていました。

【フランスのスーパー】

フランスのスーパーと日本のスーパーは違うところがたくさんあります。今回はその違いについて紹介したいと思います。

① ワイン・乳製品の種類がすごく多い!

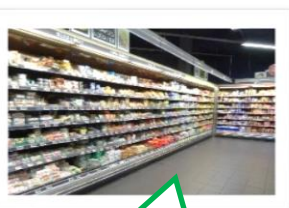
フランスに留学する前から何となく予想していましたが、想像以上でした。

フランスのスーパーには必ずワインコーナーがあります。小さいスーパーだと1コーナ



ワインコーナー
両棚とも全てワインですが、このスーパーにはこの場所以外にも2カ所同じようなワインコーナーがあります。

ーですが、大きいスーパーになると3コーナーくらいワインで埋まっています。また値段もそこまで高くなく6€以下で買えるものもたくさんあります。私はあまりワインが好きではなかったのですが、友達にいろいろ教えてもらい自分の好きなワインを見つけました(笑) ストラスブールのあるアルザス地方も白ワインの有名な産地です。アルザス・ワイン街道という道もあり、ぶどう畑やワイナリーなどワインの名産地がたくさんあります。



全てチーズです

乳製品も日本と比べて圧倒的に種類が多く、ヨーグルト、チーズ、牛乳などいろいろなものが売られています。大きいスーパーだとチーズの量り売りがあるので自分が食べたい量だけ買うことが出来ます。ヨーグルトの種類もすごく多いです。プレーンから果物入り等いろいろあります。私のお気に入りにはベリーが入ったヨーグルトです。特にラズベリー、ブラックベリーのヨーグルトは日本であまり見かけないのでよく買っています。またほとんどの商品が16パック、24パックでまとめて売られています。

フランスにきて驚いたことの1つが、牛乳が常温保存されているということです。冷蔵の商品もありますが、ほとんどがプラスチックの容器に入って常温の棚に売られています。また、蓋の色で4つ(全乳、低脂肪乳、脱脂乳、生乳)に分類されており、日本では見たことがないヤギの牛乳も普通に売られています。6月号に書きましたが、私はヤギのチーズが嫌いなのでヤギ乳は飲んだことがありません。



② 野菜やフルーツは量り売りが基本

スーパーの大きさに関係なく量り売りが基本です。近くに袋と重さを量る機械が置いてあるので、欲しい野菜を袋に入れたあと機械に乗せ、野菜の種類を選べば勝手に重さを量ってバーコードのシールを出してくれます。それを野菜の入った袋に張り付ければ完了です。たまに腐っている物もあるので買う際は注意してみています。袋売りもありますが量が多いため使いきれずに腐らせてしまうことがあったので私は量り売りの方をよく使っています。野菜もフルーツもたくさんの種類があり、初めて見るものも多く何が売られているか見るだけで楽しいです。

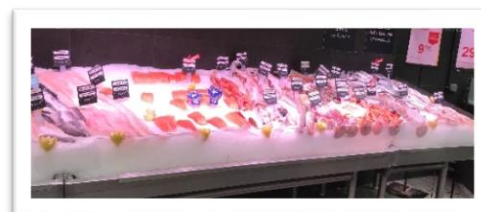


③ パスタの種類が多い

とてもたくさんの種類のパスタがあります。そしてすごく安いので、自炊している私にとってお気に入りの食材です。

④ 魚は捌いて氷の上に置いてある

ストラスブールは海から遠いためか魚の種類はあまりありませんが、大きいスーパーに行けばお魚コーナーがあります。そして必ずと言っていいほどお魚コーナーの横には寿司が置いてあります。捌く前の魚もありますが、ほとんどが切り身の状態のまま氷の上にそのまま並べておいてあり面白いと思いました。



⑤ 袋は有料

袋は有料なのでほとんどの人がマイバックを持って買い物に行きます。(レジの近くに袋も売っているので買うことも出来ます。) また、スーパーには買い物かごやカートもありますが、最初からマイバックの中に入れて買い物してもOKなので、押し車のような車輪のついたカバンを使っている人もたくさんいます。フランスに来て初めて買い物に行ったとき、自分のカバンの中に商品を入れている人を見て“堂々と万引きしているなあ…”と思ったこともありました(笑)

⑥ 水の種類が多い

フランスの水は日本と違い硬水です。水道水は飲むことが出来ますが、あまりおいしくないなので私はいつも加熱してからコーヒーや紅茶に使っています。スーパーにはたくさんの種類の水が置いてあります。(私が良く買い物をしているスーパーは12種類ありました。) メーカーにもよりますが1.5ℓのペットボトルを20円くらいで買うことが出来るので、私はフランスに来てから水しか飲まなくなりました。反対にお茶はあまり種類がありません。ピーチティーなど砂糖や味付けされたお茶はいくつかありますが、無糖のお茶はほとんど見かけません。

売られていた牛タン

飯塚結衣

⑦ 肉は固まり肉のみ

スーパーのお肉は全て塊肉で日本に売っているような薄切り肉は一度も見たことがありません。そのかわり巨大な塊やいろいろな部位のお肉がたくさんあります。一番驚いたのが牛タンです。牛の舌を切ってそのまま梱包したようなものが売られているのを見たときは衝撃を受けました。



⑧ レジのシステムが違う

フランスのスーパーではレジでの精算と商品の袋詰めが一直線になっています。ベルトコンベアのような機械の上に自分で商品をのせ、レジの店員にバーコードをスキャンしてもらったらその場で袋詰めします。日本のように袋詰め専用の台はないので、いかに早く袋詰めするか考えながらレジの列に並んでいます。高齢者や大量購入した人は時間がかかるので、大抵のレジの店員はその人が立ち去るまで待ってくれますが、たまに前の人の袋詰めが終わっていないうちに次の人の商品を流し始めることもあるので商品が混じらないようにしなければならず大変です。



フランスのレジ。手前側に商品を置くと、真ん中にあるレジの店員さんが精算してくれ、精算した商品は奥に置かれます。

⑨ いろんなところに商品が置いてある

カゴに入れた後にやっぱり買うのをやめた時など、商品を元の棚に戻さず近くの棚に置いていく人をよく見ます。日本でも見かけますが、フランスでは店員さんもすぐに元の場所へ戻したりしないので長時間放置されています。

⑩ 買い物中に食べる

たまにですが、買い物をしながら会計前のフランスパンを堂々と食べている人を見かけます。しかも子どもではなくおじさんです。驚きましたが特に注意もされていないのできちんと支払いをすれば大丈夫なのかもしれません。(未確認ですが…)

⑪ お惣菜がない

日本でよく見かける食品トレーに入ったお惣菜がありません。お惣菜は大きいスーパーで量り売りされています。サラダのようなものからパイやキッシュなどいろいろな種類のものが売られています。

⑫ 店員の対応

スーパーに限ったことではありませんが、フランスでは店員さんとの関わりは挨拶から始まり挨拶で終わります。レジをしてもらう時も互いに“Bonjour!”(こんにちは)とってから始まり、袋詰めして帰るときには“Au revoir”(さようなら)や“Bonne journée”(よい一日を)とってから帰ります。挨拶から始まるのでそこから会話が始まることもあります。私がよく行っているスーパーに怖そうなおじさんがいるのですが、初めてレジをしてもらったときに突然「コンニチハ」と言われ、それから会うたびにお話するようになりました。その店員さんはアルゼンチン人でしたが、以前日本に住んでいたそうです。私は日本の一方的な「いらっしゃいませ」よりも店員さんと互いに言葉を交わせるフランスの方が好きだと感じました。

また、お店でマグカップを買ったことがあったのですが、そのマグカップのバーコードがはがれていたので値段がわからないことがありました。その時に、レジの人に言われたのは「バーコードがないから値段がわからない。バーコードが貼ってある別の物と取り換えて来るか、買うのをやめるか、どちらにする？」でした。日本だったらレジの店員さんが確認してくれそうなのですが、フランスではそんなことはしてくれません。これはよくあることで、バーコードが貼ってある商品に変えるため走ってレジから去っていくお客さんをよく見ます。(私が買ったスーパーは大きかったので探すのに時間がかかると思い、買うのをやめました。)



フランスでよく見るカゴ。カゴとカートが一体化している感じがです。

【おわりに】

語学学校も終わり、私にも夏休みがやってきました！が、それと共に留学の終わりも近づいてきました。フランスで過ごせるのもあとわずかですが、出来るだけたくさん思い出を作って帰ろうと思います！また、帰国1週間前には1人旅行も計画しているので安全に気を付けて行ってこようと思います。それではまた！Au revoir！

